

令和二年（2020）度アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

I 理念

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」、また5つの基本理念「LIFE TRUTH FREEDOM GOODNESS ONENESS」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

II 最重要課題

1. 入学者の確保：中学校65名以上、高等学校135名を目標とした広報戦略の強化
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上
3. 学校改革に見合った施設設備の充実

【学校評価アンケートの結果と分析】

今年度は、Classiを利用したネットアンケート方式を初めて採用した。

（保護者）

学校評価アンケートの結果によると、ほとんど全ての項目にわたり肯定的評価が昨年度よりも上回っている。「学年・クラス運営」、「教職員の服装・言動」などの項目においては8割以上の満足度を示しており、本校教員に対しての保護者の信頼度は高いと言えるのではないかと。また、設問のほぼ半数において肯定的回答が7割を越えており、全体的に高い評価を得ていることが分かる。

しかし、昨年度よりは満足度は上昇したものの、「大学受験対応」については肯定的回答が4割に満たない数値に止まっている。この項目ともう一つ「本校を友人・知人に勧めるか」という項目のみが肯定的回答が5割を切っているのは、「大学受験対応」に対して不安を感じている保護者が一定数存在することに由来するものであるかもしれない。今後の課題として、進路指導をより一層深化させていくと共に、保護者に安心感を抱いてもらうための説明会の実施の検討などを進めていく必要がある。

（生徒）

学校評価アンケートの結果によると、「校外活動」以外の全ての項目において肯定的評価が昨年度よりも上回っている。特に、「進路や生き方についての考える機会」、「教職員の服装・言動」、「校則遵守」、「学年・クラス運営」の項目では肯定的評価が8割を越えており、「分かりやすい授業」についても8割近い数値となっている。

しかし、生徒のアンケートにおいても「大学受験対応」が6割を下回っており、保護者と同様、進路に関する部分で不安を抱いている生徒が一定数存在することが分かった。また、「問題対応」についても、昨年度よりは大幅に数値が改善され、6割近くが肯定的回答となっはいるが、決して高い数値であるとは言えない。問題に対応してもらえていないと感じる生徒を少しでも減少させられるよう、普段から生徒の様々な行動を見過ごさず、丁寧に対応していくことが出来る体制を築いていく必要があると思われる。

（教員）

学校評価アンケートの結果によると、「教職員の服装・言動」、「分かりやすい授業」、「家庭連絡」、の項目で肯定的回答が8割を越えており、また「相談対応」も8割に近い。ほとんどの項目で昨年度よりも肯定的回答が上回っており、ほとんどの教員が、授業内容や生徒・保護者対応に自信を持って取り組んでいることが分かる。

しかし、「施設・設備」については肯定的回答が4割を切る。これは休校時のネット環境などの影響が大きいのではないかとと思われる。また、「大学受験対応」についても肯定的回答は4割をわずかに越える程度で、「進路関係行事」についても5割に止まっている。「大学受験対応」など進路関係

の項目については、保護者・生徒・教員で共通して肯定的回答が低いが、「分かりやすい授業」については生徒・教員共に評価が高く、受験対応にまで繋げていくことは十分に可能であると考えます。
 また、「学年・クラス運営」の肯定的回答が6割程度に止まっているが、保護者・生徒共にこの項目に対する満足度はどちらも8割を越えている。この項目での評価の上昇が、その他の項目の上昇に繋がっていることも考えられ、教員自身が自信をもっと持って継続してもらって良い部分であると思われる。

III 本年度最重要課題に対する施策、及び自己評価

最重要課題	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 入学者の確保・広報戦略の強化	(1) 中学校65名 高等学校135名 を目標とした広報戦略の強化	1) Webページによる情報発信力の強化	ア) 紙媒体によるイベント告知からWebページへ誘導する流れを確立する。	ア) 結果：○ 各イベント毎のチラシを作成し、Webページへと誘導。 学校ブログの充実化。
			イ) Instagramによる様々な学校情報の発信	イ) 結果：△ 学校のInstagramを開設することで、より簡単に広く本校の情報を発信したが、広報イベントなどでのアンケートなどを見ると、Instagramを見て本校に足を運んだ参加者はほとんど見られない。
			ウ) 広報戦略会議の小・中高連携	ウ) 結果：△ 入試広報部長が小学校保護者向け説明会などを頻繁に行ったが、併設小学校からの入学者の減少を見ても、さらなる連携が必要。
		2) 説明会の目的を明確化と内容の充実	ア) 「生徒を見せる」企画の立案	ア) 結果：○ 在校生、卒業生による学校説明、生徒による歓迎パフォーマンス、手伝い生徒の起用、公開授業の実施などいずれも参加者に高評価を得た。
			イ) イベント回数の増加	イ) 結果：○ コロナ禍により例年のイベントは縮小を余儀なくされたが、数回のイベント説明会を実施することで補うことが出来た。
		3) 内部満足度の向上	ア) 修学旅行・生徒会行事の活性化	ア) 結果：△ コロナ禍により高2修学旅行を中止とするなど、縮小を余儀なくされたが、工夫して行った学院祭などの生徒会行事により、学校評価アンケートでは保護者・生徒共に高い満足度を得た。
			4) 入試制度の改善	ア) 高校入試面接の廃止
		イ) 中学入試結果		イ) 結果：△ 中学入学者は36名(外部30名+内部6/13名)であり、一般入試入学者、内部進学者共に減少した。

			ウ)高校入試結果	ウ)結果：○ 高校入学者は107名（外部65+内部42/54名）であった。昨年度と比較して入学者は増えている。しかし、併願者が多かった部分もあり、専願率の増加への検討が必要。
2 教育力の向上	(1) 21世紀型教育の定着と充実に向けての教育力向上	1)英語イマージョン教育の充実	ア)イマージョン委員会を設置	ア)結果：△ イマージョン委員会を設置し、12年計画を推進しているが、情報伝達・意思疎通の経路・方法の確立が課題として残る。
			イ)オリジナル教材の製作	イ)結果：○ 高校理科・数学については日本人教員とネイティブ教員の協力でオリジナル教材を制作した。今後も学年進行で整備予定。
		2)PBL教育の推進	ア)委員会内に授業プロジェクトを設置	ア)結果：○ 授業プロジェクトのメンバーを中心に、おおよそ月一度の割合で自主教員研修会を実施。また、年度末には全体での教員授業研修会を実施した。様々な工夫を凝らして授業を行う教員がかなり増加してきており、内容や頻度において充実化が見られる。
		3)ICT教育の充実	ア)ICTを活用した授業の推進	ア)結果：△ 学校全体のLAN環境整備やサーバ構築など、環境整備は大幅に進んだがそれを管理する教員への負担は大きい。ICTを活用した授業の研修も行き、着実に普及しつつあるが、生徒個別の端末の活用について、更なる深化が必要。
		4)グローバル教育の充実	ア)国際交流プログラム・短期留学の充実	ア)結果：○ 分掌内に「国際交流センター」を独立して設置し、国際交流・留学を一括して担当。
		イ)語学検定など、資格取得の推進	イ)結果：○ ほとんどが希望者実施ではあるが、英語検定、GTEC、TOEFL、フランス語検定、DELFDALF、硬筆・毛筆検定、漢字検定などの受験を積極的に勧めることができた。	
		ウ)海外進学を意識したイベントの充実と実績	ウ)結果：○ 高校生向けに、海外進学・留学説明会を実施した。海外大学への進学が1名実現した。	
		5)進路実績の向上	ア)関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を利用できる生徒の増加	ア)結果：○ 高1・高2向けの関西学院大学訪問はコロナ禍により実施できず。本年度、指定校推薦枠を利用して進学した生徒は41%にのぼり、その内、関

		6)教員個人の教育力向上	<p>イ)受験による進学実績の向上</p> <p>ウ)「個々の能力にあった教育」</p> <p>ア)教員対象授業研修の実施</p> <p>イ)若手教員向けの教員研修の充実</p>	<p>西学院大学へは13名と大幅に増加した。</p> <p>イ)結果：△ ほとんどが指定校推薦・公募推薦・AO入試などで進学しており、一般入試で進学したのは9名のみ(8.5%)。国公立大学には1名が進学している。</p> <p>ウ)結果：○ 生徒数・クラス数の増加の中にあっても、担任・学年団を中心として生徒一人一人に寄り添い、個々の能力や性格にあった教育を提供できた。</p> <p>ア)結果：○ 教員対象の授業に対する全体研修を実施し、個々の教員の授業力向上に繋げることができた。</p> <p>イ)結果：△ 相互の授業見学などの呼びかけを行い、自主教員研修への参加もあったが、コロナ禍もあり研修を行う機会は少なかつた。</p>
3 施設設備の充実	(1)学校改革に見合った組織と施設設備の充実	<p>ア)中高男子サッカー部長期計画</p> <p>イ)教室の整備</p> <p>ウ)環境の整備と充実</p> <p>エ)小学校との連携</p>	<p>ア)中高男子サッカー部についての長期計画を検討する</p> <p>イ)クラス数増に見合った教室の整備</p> <p>ウ)部室、更衣室、ICT環境等の整備と充実を行う</p> <p>エ)様々な面で、併設小学校との情報共有、連携を行う</p>	<p>ア)結果：○ 2021年度は高校へ内部進学するサッカー部の生徒が初めて出てくる年度であり、それに対応して内部進学生生のサッカー特待生の規定を整備した。</p> <p>イ)結果：○ 中学校全学年3クラス、高等学校全学年4クラスに対応できる教室を整備した。</p> <p>ウ)結果：○ 生徒数・クラス数増に対応するためのICT環境、更衣室、部室の整備を行った。</p> <p>エ)結果：○ 中学校・高等学校の校長が小学校校長を兼ねる形で情報共有・連携を目指し、一定の成果はあったと思われる。</p>